

ウスマーン ブン アッファーン (1/2) : 寛大かつ敬虔な男

説明： 預言者ムハンマドの3代目の後継者が、どのようにしてイスラームへ改宗したか。
より アイシャ ステイシー

掲載日時 11 Mar 2013 - 編集日時 16 Jun 2013

カテゴリ： [記事](#) > [預言者ムハンマド](#) > [彼の教友たちの物語](#)



ウスマーン ブン アッファーンは、預言者ムハンマドから3代目にあたる後継者でした。彼は信仰者の長として知られ、12年間に渡る統治をしました。彼のカリフ職における最初の6年間は比較的平和な時代でしたが、最後の6年間は内部抗争や反乱者による破壊工作による損害を被りました。ウスマーンはその敬虔さ、寛大さ、親切さによって記憶されていますが、慎ましさと羞恥心によっても知られ、気前の良さでも称賛されています。彼は神への従順、そして預言者ムハンマドとその共同体への愛情に基づいた、偏向のない公正さと、緩やかで人道的な政治によって統治しました。

ウスマーン（彼に神のご満悦あれ）は預言者ムハンマド（神の慈悲と賞賛あれ）の生誕から7年後に生まれ、クライシュ族の氏族であるウマイヤ家に属していました。ウマイヤ家はその勢力と富により、クライシュ族の中でも最も影響力ある氏族で、ウスマーンはその良き品行と羞恥心から、彼らに最も愛されていた「ゴールデン ボーイ」でした。彼の先代であるウマル ブン アル=ハッターブのように、ウスマーンは読み書きができましたが、これはイスラーム以前のアラビア半島においては稀な能力で、彼は織物商として成功を収めました。彼は生涯を通して親切かつ寛大な人物であるとみなされ、イスラーム改宗前でさえ、たびたび困窮者に喜捨を施していました。

ウスマーンにイスラームを紹介したのは、彼の親しい友であったアブー バクルで、彼は34歳のときに改宗をしました。その当時はイスラーム勃興直後で、マッカ住民によって組織的に虐待や拷問が改宗者に対して行われていたときでした。こうした虐待を彼自身も受けたにも関わらず、ウスマーンはイスラームを棄教せず、預言者ムハンマドの娘であるルカイヤとの結婚を果たし、預言者との関係を強化させました。

虐待と拷問はその後も続き、ウスマーンの裕福な家族、また商人としての社会的地位でさえも彼を守り切れなくなっていました。彼は自らの家族からも虐待 拷問されるまでにな

りました。彼の叔父は彼の両手両足を鎖でつなぎ、暗い密室に閉じ込めたのです。彼の親近による酷い待遇は、ウスマーンと彼の妻にアビシニアへの移住を決意させます。預言者ムハンマドは彼の忍耐強い性格を称賛してこう言っています。「ロト以降では、ウスマーンが神のために自宅の快適さを棄てた最初の人物なのだ。」数ヵ月後には、苦悶するムスリムたち、そして敬愛する父である預言者の元にウスマーンとルカイヤは帰ってきました。

ウスマーンは預言者ムハンマドとの非常に近い関係を築き、イスラームの緻密な知識を得ました。彼は、146もの伝承を預言者から直接伝え、クルアーンを書き留めることも出来た数少ない人物の一人でした。またウスマーンは、崇拜儀礼を学ぼうとする者たちにとっての参照先ともなりました。彼は洗淨儀礼（ウドゥー）、礼拝やその他の義務行為を理解し、他者に教えることが出来たのです。また、彼はマディーナへの移住に参加し、ムスリム国家の樹立において、密接に預言者ムハンマドの手助けをしました。預言者ムハンマドは彼のことを補佐であると言及しています。

マディーナにおいて、水の供給源は不足しており、井戸の権利は少数の人々によって管理されていました。彼は熟練した商人であり、交渉に長けていたため、ムスリムたちを代表して井戸を購入しようと試みました。彼はまず、井戸の半分の値段を交渉しました。それはつまり、元の所有者と交代で一日おきに井戸の水を使用する権利でした。しかしウスマーンはムスリムたちに無料で水を提供したことから、有料で水を汲ませていた元の所有者から購入する者はいなくなりました。したがってその井戸の所有者はウスマーンに残りの半分の権利も売り渡す他なくなりましたが、それにも関わらずウスマーンは適正な価格で買い取ったのです。ウスマーンはその後も皆に無料で水を汲み取らせ、そのことをひけらかしたり、誇示したりすることはありませんでした。彼は謙虚で慎み深い人物だったのです。

ウスマーンは神とその使徒ムハンマドを喜ばせるため、彼の財産からも惜しげなく施しました。記録によると、彼は毎週金曜日、それらを自由にするため奴隷を買取っていました。その習慣のため、彼は裕福であったにも関わらず、自分自身の召使いがいなかったこともしばしばありました。預言者ムハンマドとムスリム軍がビザンチン帝国との戦争のためタブークに遠征した際、彼は裕福な者たちに呼びかけて、軍隊の装備と援助のために出資するよう富と資金を募りました。ウスマーンは200頭の鞍付きのラクダ、そして200オンスの金、そして1000ディナールを提供しました。預言者ムハンマドは、他者がウスマーンに触発されて施すようにしきりに寄付を募っていました。しかしながら、ウスマーンは誰よりも沢山寄付をし、最終的には900頭の装備されたラクダを提供したのです¹。

私たちが思い浮かべることの出来るウスマーン像は、寛大で気取ることのない、親切な男といったものです。彼はその謙虚さ、慎ましさ、敬虔さで知られていました。ウスマーンはたびたび、夜間を礼拝によって過ごし、頻繁に行った断食も、ときには隔日で行っていた程です。彼はその裕福さにも関わらず簡素に暮らし、モスクの中で砂にまみれて眠ることもあり。ウスマーンは6人からなる評議会によって、預言者ムハンマドの3代目の後継者として選ばれました。彼は預言者ムハンマド、アブーバクル、ウマルの慣習であった人道的公正な統治を受け継ぎました。彼はムスリムの長であるカリフとして、その領土をモロッコ、アフガニスタン、そしてアゼルバイジャンにまで拡大しました。6年間に渡り、彼の統治は平和なものでしたが、そこには不穏な空気が忍び寄ったのです。

彼の前任者たち同様、ウスマーンブンアッファーンは人々に尽くした人物でした。彼は羞恥心に満ちていましたが、その統治は後期において、内部抗争と反逆によって甚大な損害を被りました。神はウスマーンを3代目の指導者としてお選びになりましたが、反抗勢

力は彼をその地位から引きずり降ろそうとしたのです。預言者ムハンマドは、ウスマーンが非常に困難な状況に陥ることを予言していました。「ウスマーンよ、神はおそらくあなたに衣服をお着せになるだろうが、もし人々があなたからそれを剥ぎ取ろうとしても、彼らのためにそれを渡してはならない。」
ウスマーンはその「衣服」を明け渡したりはしませんでした。彼による神とその使徒への愛情は、老齡、そして極めて困難な状況においても、強い心と謙虚の念を持たせたのです。

Endnotes:

[1](#) The Sealed Nectar. Safi Ur Rahman Al Mubarakpuri.

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/2180>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.